

## がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

## 高橋利忠先生記念シンポジウム盛会裏に終わる

愛知県がんセンターとがん免疫学研究の発展に長年貢献された故高橋利忠・愛知県がんセンター名誉総長の功績を偲び、愛知県がんセンターは、日本がん免疫学会共催、日本癌学会後援のもと、高橋利忠先生記念シンポジウム～がん免疫と分子理解が拓くがん制御の未来～と題した学術集会を開催いたしました。5月25日（土）に当センター国際医学交流センターメインホールにおいて、総長の高橋による基調講演を皮切りに、制御性T細胞の発見で著名な坂口志文博士による特別講演や、日本がん免疫学会理事長の河上裕博士や当センター研究所分野長2名を含む計6名のシンポジストによる、がん免疫とがんの分子理解をそれぞれのテーマとしたセッションが行われました。がんに関わる幅広い研究者と臨床医の方々にとって興味深いものとなった本シンポジウムには、好天に恵まれる中、東海地方のみならず北は北海道から南は沖縄まで、13都道府県に所在する大学やがんセンター等の研究機関や企業の研究所等から、総計230名（海外1名を含む）の研究者にご参集いただきました。

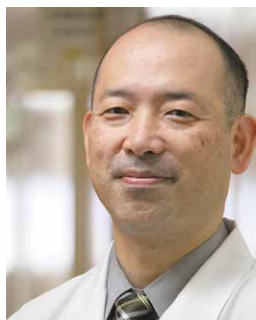
故高橋利忠名誉総長に所縁ある演者の方々は、いずれも当該研究領域における我が国の第一人者であり、名誉総長の残された足跡の大きさが偲ばれる会となりましたが、私たち職員一同にとっては、当センターの益々の発展を改めて心に誓う機会ともなりました。

愛知県がんセンター総長 高橋 隆



高橋利忠先生記念シンポジウム会場風景

## がんゲノム医療センター



センター長  
井本 逸勢



副センター長  
衣斐 寛倫

がんの薬物療法では、がん細胞に存在する遺伝子異常を標的とした薬剤（分子標的治療薬）が多く使用されています。近年、遺伝子解析技術の進歩に伴い、分子標的治療の候補となりうる多数の遺伝子異常（100～300個）を一度に調べる遺伝子パネル検査が開発され、本年6月に保険適用となりました。当院は本年3月にがんゲノム医療センターを開設するとともに、遺伝子パネル検査で見つかる異常の意義について判定するため多職種の専門家から構成されるエキスパートパネルを開催するなど、急速に進歩するゲノム医療への対応を進めています。また、5月29日には慶応大学がんセンターの西原広史先生をお迎えし、ゲノムセミナーを開催しました。現在のところ遺伝子パネル検査の対象となる患者さんは、標準的な治療に無効

となった方に限られており、検査が治療に結びつく可能性についても10～20%とされています。

がんゲノム医療センターでは、がんゲノム外来を開設し、遺伝子パネル検査を希望される患者さんに対し検査の内容と意義について丁寧な説明を行います。遺伝子パネル検査を希望される場合は、ご自身が検査の対象となるかまずは主治医とご相談ください。



## 新任医師の紹介



呼吸器外科部  
仲田 健男

この度、愛知県がんセンターの呼吸器外科部の医長として赴任しました。

平成16年に東京慈恵会医科大学を卒業し、母校の外科学講座に入局しました。趣味は読書とジョギングです。患者さんにやさしい医療、安心できる医療をモットーに一生懸命頑張ります。



血液・細胞療法部  
上田 格弘

7月より血液・細胞療法部に着任しました。血液腫瘍は治療期間が長くなることもあります。患者さんとお家族の心に寄り添い、安心して治療を受けていただけるように、また、一緒に病気を乗り越えていけるよう努力いたします。どうぞよろしく願い致します。



患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな1頁

# とろく医探訪 No.12

Produced by  
地域医療連携・相談支援センター

## 大鹿内科医院 院長：大鹿 裕幸 先生



私は昭和59年に名古屋市立大学を卒業してからずっと呼吸器内科として臨床を行っており2000年に父親の後を引き継いで開業して約20年になりました。当院はがんセンターから歩いて5分という近くにあり、常日ごろから癌疑いの患者さんをよく紹介させていただいております。開業当初から在宅医療にも力をいれておりがんセンターから多くの在宅患者さんも紹介していただき退院時には必ず訪問看護師さんやケアマネージャさんらとカンファランスを開いていただいて患者さん、ご家族の方も安心してご自宅での診療をうけられています。最近はがんセンターで緩和医療外来や癌患者の生活支援なども行っておりがん患者さんにとっては多方面からのサポートがあり心強い限りだと思います。

また呼吸器内科、外科の先生方とは肺癌検診の読影をお手伝いいただいたり、がんセンターで肺癌の勉強会も定期的に行っていただき病診連携とともに私自身の刺激にもなっています。肺癌の治療をはじめ、がん全体の治療効果については私が開業する20年前から各段の進歩をとげており、がんの疑いの患者さんも希望をもって受診できるようになりました。今後とも愛知県がんセンターとうまく連携しながら地域医療のために尽くせたら幸いです。

### 【医療機関情報】

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後	5:00-7:00	○	○	/	○	○	/	/

### 大鹿内科医院

診療科目／内科、呼吸器科、アレルギー科、小児科

電話／052-762-2755

所在地／〒464-0016 愛知県名古屋市千種区希望ヶ丘4-8-6



編集後記：第12回は千種区、「大鹿内科医院」です。呼吸器科、内科の患者さんを中心に、在宅診療にも力を入れて対応されております。診療所前の広場の大きな樹が、文字通り地域に根差した、暖かい眼差しの大鹿院長を連想させます。これからもよろしく願いいたします。<Y.SANO>

# キャンサーバイオバンク愛知2018年度登録状況

研究所 バイオバンク部門



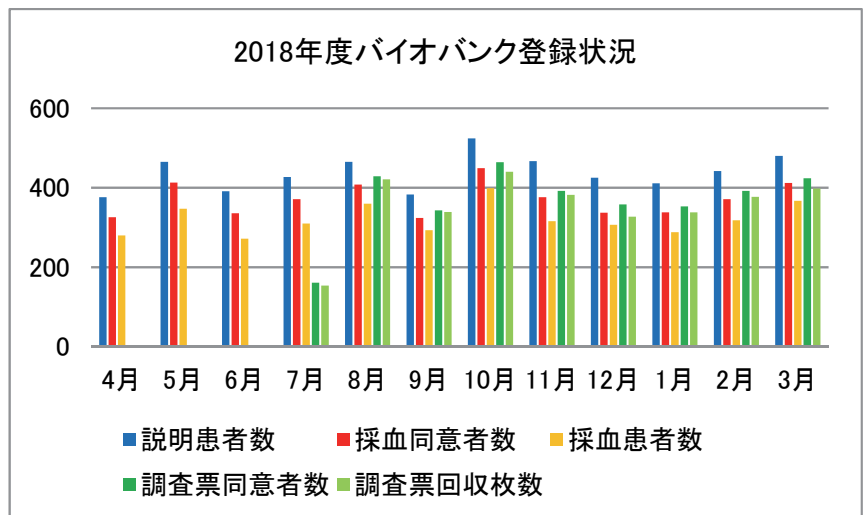
バイオバンク部門長  
松尾 恵太郎

愛知県がんセンターでは、県民・国民・人類の健康に貢献するため、2017年にキャンサーバイオバンク愛知を設立しました。外来初診患者さん5,000名/年を対象としてバイオバンク事業への参加を依頼しています。2017年11月から血液試料の収集を開始し、2018年7月から調査票による疫学情報の収集を開始しました。

2018年度は5,256名の初診患者さんを対象に、バイオバンク事業参加への同意説明をいたしました。そのうち4,461名の患者さんに「バイオバンク保存用に血液を余分に採取すること」に同意していただきました。実際に3,857名の患者さんに血液を採取していただき、バイオバンクの試料として保管しております。また、7月から開始いたしました調査票による疫学情報の収集は、3,771名の初診患者さんを対象に、調査票参加への同意説明をいたしました。そのうち3,316名の患者さんに「バイオバンク保管用に疫学情報を提供すること」に同意していただきました。

回収された調査票は3,176名分で、バイオバンクに情報として保管しております。

バイオバンク窓口を開設してから一年半以上が経過しておりますが、患者さんの温かいご協力により、順調に試料と情報を保管できていることに感謝しております。バイオバンクでは、患者さんのお気持ちが未来の医学・医療の発展につながるよう、今後も努めてまいります。



## 研究所 腫瘍制御学分野

## スタッフの紹介

腫瘍制御学分野では、細胞が通常の状態を保つ仕組みの破綻としてがんを捉え、その分子メカニズムについて研究しています。細胞の内外では増殖や生存を厳密に制御するために様々なシグナルのやりとりが行われていますが、遺伝子変異や細胞を取り囲む環境の変化によりシグナルが乱れると、細胞のがん化やその悪性を招くと考えられます。私たちは、がんの発生や悪性化につながるメカニズムをより深く理解することにより、新たながん治療法の開発を目指しています。



写真：前列左から、内藤陽子（研究員）、小根山千歳（分野長）、疋田智也（主任研究員）  
後列左から、宮田眞美子（技師）、山内友恵（リサーチレジデント）、三谷文美絵（名古屋市立大学連携大学院生）  
左枠、渡邊理沙代（技師）

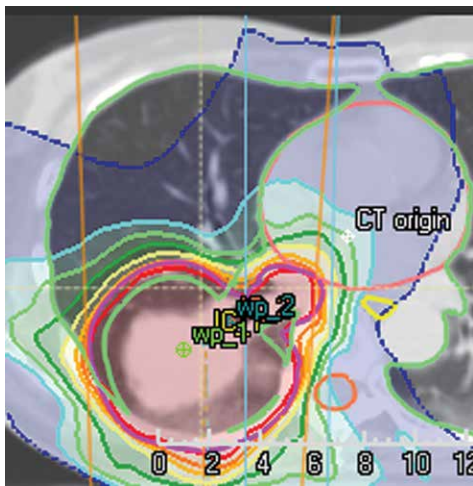
# 肺癌にたいしての強度変調放射線治療 (IMRT)

病院 放射線治療部

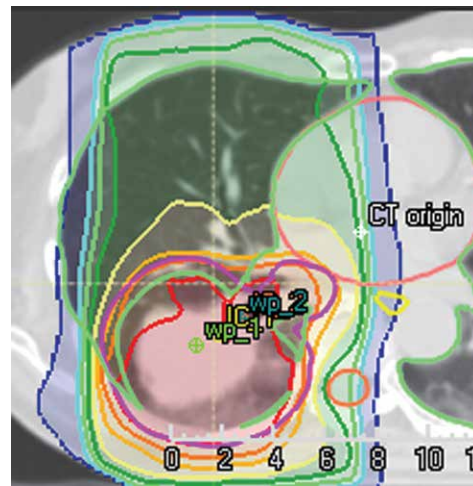


放射線治療部長  
古平 毅

放射線治療部では高精度治療の強度変調放射線治療 (IMRT) をこれまで前立腺癌、頭頸部癌、骨盤腫瘍を対象に治療してきました。IMRTは全周性に放射線をあてることで正常臓器の放射線を減らし副作用を低減できます。しかし肺癌では広い範囲に少ない放射線が当たることのリスクが高いと考えられ、これまで局所進行肺癌でほとんど使いませんでした。一方海外ではIMRTは局所進行肺癌で肺の副作用を減らすという報告が多く、IMRT技術も近年格段に進歩してきています。当院でも最新式治療機導入で治療精度が大幅に向上したことから、従来法で肺線量が高い症例にIMRTを積極的に応用しています。図の左がIMRT,右が従来法の線量分布です。緑色の40Gyの範囲が従来法は右肺全体に広がりますが、IMRTでは腫瘍のまわりに集中します。最近では進行肺癌には化学放射線療法後に免疫チェックポイント阻害剤を追加することで生存率が大きく改善しましたが、放射線肺炎が発生するとこの有効な薬剤が投与できません。IMRTの利用で安全に放射線治療を行い更に治療成績が改善できると期待しています。



IMRT



従来法の線量分布

## 消化器内科部 スタッフの紹介

私たち消化器内科部は、肝臓、膵臓、胆道（胆管および胆のう）疾患の診療を行っています。がんの精密検査はもとより、薬物療法にも力を入れています。中でも、膵癌の早期発見と新規治療開発を目的とした治験に積極的に取り組んでいます。超音波内視鏡を用いた低侵襲な診断法と新規の内視鏡的治療の開発においては、日本の草分け的存在であり、患者さんの苦痛を軽減し、生活の質を維持できる治療を常に目指しています。



写真：前列左から、羽場 真 (医長)、水野伸匡 (医長)、原 和生 (部長)、Moaz Elsayed (エジプトからの留学生)  
後列左から、桑原崇通 (医長)、奥野のぞみ (医長)、宮野 亮 (レジデント)、孝田博輝 (医員)

# がん治療と心血管疾患の発症について

病院 循環器科部



循環器科部長  
山本 充

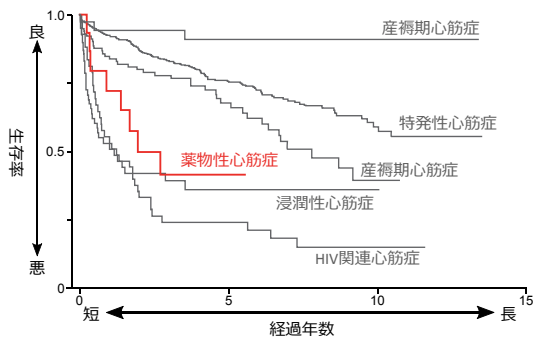
循環器科部ではがんの治療を実際に行っているわけではありません。当院での循環器科部としての役割は、がん治療の継続や完遂に支障が出ないように循環器疾患を診断・治療してゆくことです。

がん治療は進歩していますが、中にはある種のがん治療薬によって心血管疾患が引き起こされる場合も出てきます。決して多い頻度ではないと考えていますが、がん治療を受ける方が増加している中では循環器疾患を合併する割合も増加傾向にあるのが現状です。

心血管疾患の主な合併症としては、心不全、血栓症（特に静脈血栓症）、高血圧や不整脈といったものが挙げられます。がん治療薬による心不全の場合には、多くの方が治療によって改善・快復してゆくものの、一度発症してしまうと改善することが難しい状態に陥る場合もあり注意が必要です（図1）。可能な限り早期に診断することや治療を開始することが大事になります。血栓症もがんと深い関わりがあります。ある統計ではがん患者さんの1割程度の方に何らかの血栓が見つかることが報告されています。また血栓症はがん患者さんの約1割の死因ともなっており（図2）、命にも関わる合併症ですので早期に発見し、血栓の拡大・拡散を未然に防ぐ必要があります。

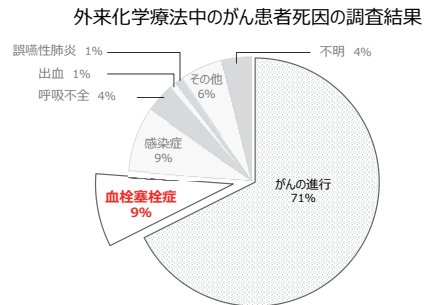
循環器科部としては、これからもがん治療を受ける方々の安全・安心につながる診療を心がけてゆきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

図1: 薬物性心筋症は重症化すると予後が悪くなりやすい



Felker GM, et al. N Eng J Med. 2000; 342: 1077-84. 著作権

図2: がんの病状悪化で亡くられる方が多いが、血栓症が理由となる場合も少なくはない



Khorana AA, et al. J Thromb Haemost. 2007; 5: 632-4. 著作権

## 麻酔科部 スタッフの紹介

麻酔科部では手術麻酔を行っています。スタッフ同士で日頃から意思疎通をはかり、手術中の出血や緊急事態にも協力して対応しています。東海地区では麻酔科医不足が特に深刻ですが、当院ではスタッフを着実に増強してきました。麻酔科医はチーム医療の一員として、患者さんにとってより良い方針を他科の医師や看護師と協力して立案・実行し、手術が安全に行われ、痛みが可能な限り少なくなるよう手を尽くします。



写真：前列左から、栃井都紀子（医長）、中井愛子（医長）、伊東仁美（医長）  
後列左から、原 真人（医長）、水谷吉宏（医長）、仲田純也（部長）、  
小林一彦（医長）、岡崎大樹（医長）

## 中部地区がん医療連携学術講演会のお知らせ

近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、医療従事者を対象に「第11回中部地区がん医療連携学術講演会」を開催します。講演会では、最新のがん医療を紹介いたします。

＜第11回中部地区がん医療連携学術講演会＞

- ・日時 令和元年7月27日(土) 17:00～
- ・会場 ホテルメルパルク名古屋

※大阪大学大学院経済学研究科大竹文雄教授による特別講演も行います。



前回(第10回:H31.3.9開催)の様子

## 医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、リスク評価センター
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科に対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分

市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

### ★車でのアクセスのご案内

#### ◎一般道路

本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西

#### ◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索